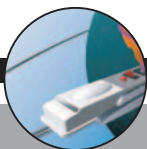
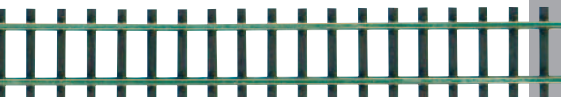


1888 EIFFEL TOWER
UNDER CONSTRUCTION



1996 T3 RailRoad



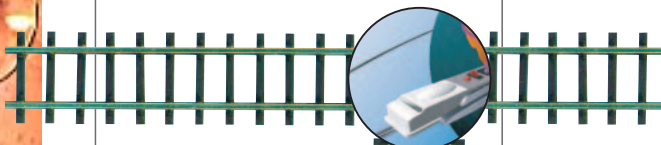
INTERNET 1996 WORLD EXPOSITION

A WORLD'S FAIR FOR
THE INFORMATION AGE



1996年にインターネット上で開催される万国博覧会「インターネット1996ワールドエキスポジション」。世界を45 Mbps(一般にT3と呼ばれている)の回線をつなぎ、サーバー上にパビリオンを「建設」という壮大な計画。これを立案したのが米国インターネット・マルチキャスト・サービス社の社長、カール・マラムッド氏だ。7月20日、幕張メッセで開催されたネットワールド+インターロップのために来日したカール・マラムッド氏に直撃インタビューをした。

インタビューア: 今泉 洋(本誌シニア
コラムニスト)



インターネット1996
ワールドエキスポジションの仕掛け人
カール・マラムッド



① これはどういうところから始まった話なわけ？

カール ☞☞ 考え始めたのは2年くらい前からだね。前にインタビューされたとき（本誌No.4）にも話したと思うけど、これまでずっと「インターネット・マルチキャスト・サービス（IMS）」っていうのをインターネット上でやりながら、世界のいろんなところに出かけて、そこで友達と話してるうちに自然にこんなものになった、というところかな。

① IMSというのは「インターネットをひとつの街とみたてた場合、公園のない街なんて考えられない。そんなところに誰も来たいと思わない。だから、その必要な公園を作らなくちゃいけない」ってことで、パブリック・ユーティリティとしての情報サービスをインターネット上でやるってことだったよね。

カール ☞☞ まあ、IMSのやってること自体が今回のプロジェクトの原型なんだよね。そういう意味ではずっと同じ事をやることになるね。ただ、インターネットはこのところすごいスピードで世界的に拡大してる。そういうふうはこの時代の変化を見ても、ちょうど19世紀末に世界博覧会がやったような役割を果たすようなものが必要なんじゃないかと思ったんだ。そのころの世界博は、電灯だとか鉄道、電話、テレビなんていう当時の最新技術……今では当たりまえに使われている技術を世界的に普及させるきっかけになって、文化や生

活のスタイルを大きく変えた。それで僕らは現在のような世界にいるわけだけど、今やこの時代にも大きな変化が起こってる。こうした情報環境の変化を世界中の多くの人に身近に感じてもらうためにも、昔の世界博覧会みたいなイベントが必要なんだよ。それに世界博はクリスタルパレスやエッフェル塔なんかのモニュメントを残してるわけだけど、情報の世界に必要な「公園」の役割を果たすモニュメント……、僕としては21世紀のサイバースペースにハイパークみたいなものが残せればいいなと思ってるんだ。

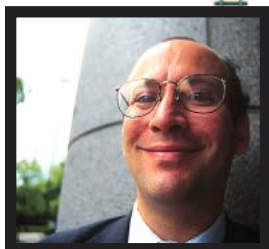
① で、この企画への反応はどう？

カール ☞☞ そりゃいいに決まってるよ（笑）。アメリカ政府はもちろんだけど、いろんな国の政府だとか企業も賛同してくれてるし、まだ正式発表までどこかは言えないけど、日本の会社でも数社が支援してくれることになってる。

① 具体的には、どんな形になるの？

カール ☞☞ 「インターネット・レイルロード」といって45メガビットの線を世界6か国に張り巡らせるんだけど、これをバックボーンにして世界中に核になる“パビリオン”が作られることになる。これが工業社会の世界博との大きな違いだね。インターネットっていうのはどこが中心だってことのないメディアだから、世界中の誰でも自分のサーバーを立ち上げて“パビリオン”を開くことができるし、逆に誰もが世界中、

「公園のない街なんて考えられない。
そんなところに誰も来たいと思わない。
だから、その必要な公園を作らなくちゃいけない」



どこからでも世界博を体験することができるんだ。全体の運営は、アメリカではIMS、日本ではWIDE、オランダではNIKHEF、ヨーロッパではRIPEといった組織が協力し合うことになってる。

① どんなパビリオンができる予定？

カール ☎️ 世界博には2つの方向があって、実際の世界の模様をサイバースペース

に持ち込むというのと、逆にサイバースペースを実際の世界に展開するという方向だね。最初のやつは、情報や出来事をオンラインに載せていくという方向で、これがパビリオンということになる。でも、おおげさなものじゃなくて、ウェブのホームページということだってありなんだ。もう1つは世界中のいろんなところにインターネットの端末を置いてサイバースペースのことを教えたり、世界博を体験してもらうということ。これも大事なこ



とだよ。僕としては、IMSでやってる「タウンホール」みたいな、パブリックにすべき情報の開示というのをもっと積極的にやっていきたいし、世界博のディレクター・サービスみたいなものも充実させたい。それから「Reinventing Government」パビリオンっていうのがある。今、政府は非常に多くのいろんなデータを持って公開されることにはなってるけど、普通の人が見るのは一苦労だし、たとえデータにアクセスできたとしても面白いもんじゃない。これをなんとか簡単に、しかも面白く見れるように化粧直ししていくっていう計画なんだけど、これはこれでなかなか意味のあるこ

とだと思うんだ。

これ以外にも「Global Schoolhouse」パビリオンという世界中の学校を結んでしまう計画とか、Networld+Interopやインターネットを中心にした情報産業の動きをカバーする「Industrial Exhibition」やスモールビジネスのパビリオンも計画してる。

でもどんなパビリオンができるかはこれからだし、今後の動きは<http://www.town.hall.org/fair/>で見ることができるから、注目してほしいな。

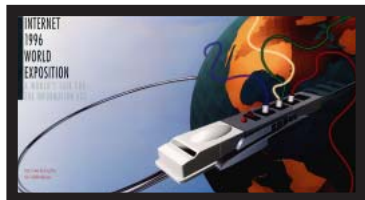
① 僕としては「ToasterNet」パビリオンが面白そうだと見てるんだけど。

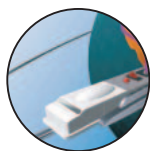
カール ☎️ そうそう。「ToasterNet」パビリオンでは面白いことがいっぱい出てくると思うよ。これはいろんなものをインターネットにつないでしまおうという計画なんだけど、Interopの会議でコンテストをやることになってる。もう、オランダの牧場で飼われている牛一頭ごとに名前のついたセンサーをつけて、アメリカの小学生が自分の好きな名前の牛が牧場のどこにいるのが見れるようにするっていう計画があるみたいだね。まあ、トースターっていうのはもう実際にやっちゃってるから、後はどんなものがインターネットにつながるか、楽しみだね。

カール・マラムッド (Carl Malamud)
米国インターネット・マルチキャスト・サービス社長

インターネット・マルチキャスト・サービス社はノンプロフィットオーガナイゼーション、つまり非営利組織である。ハードウェアメーカーや出版社の支援を受けて運営している。インターネット上で文字情報だけでなく、「インターネットトークラジオ」というラジオ番組を制作し、放送している。内容はアート、音楽、著名人とのインタビュー、政治、科学、テクノロジーなど多岐にわたる。スタジオをワシントンD.C.のナショナルプレスのなかにもち、インターネット上で報道をする「本物の」プレスとして活動している。

URL <http://town.hall.org/fair/>





日本でもいよいよ始動する インターネット1996ワールドエキスポジション

本年3月に米国ラスベガスで開催された「ネットワールド+インターロップ」で、企画者であるカール・マラムッドによってその構想が発表されたインターネット上の仮想万博「インターネット1996ワールドエキスポジション」がいよいよ具体的になってきた。7月21日、幕張メッセで開催されていた「ネットワールド+インターロップ'95 トークョウ」のキーノートスピーチでカール・マラムッド氏がコンセプトについて講演した。その後、マスコミ向けの記者発表が行われた。記者発表の会場では、カール・マラムッド氏をはじめ、日本のインターネットの立て役者である慶応義塾大学の村井純助教授、また、このイベントへの参加を表明している株式会社アスキーの西和彦社長、ソフトバンク・エキスポ・ジャパンの石川憲和氏。国際大学グロコム公文俊平氏も同席した。

インターネット発展の原動力に

万国博覧会といえば、1851年のロンドンでは世界初の万博のシンボルとしてクリスタルパレスを作った。この万博では工業化時代の登場を大衆にアピールした。いまではクリスタルパレスは取り壊されてしまったが、ハイパークなどの多くの記念となる場所が残っている。

また、1889年のパリ博ではいまでもパリの

象徴であるエッフェル塔が建設された。エッフェル塔の建設は初期の風洞として活躍し、その後の航空機産業に貢献をしている。

このように万国博覧会は、イベントとして人々の求心力となることはもちろん、産業にとって大きな資産を残してきている。

今回のインターネット1996ワールドエキスポジションも同じ意味があり、45Mbpsのバックボーンネットワークを象徴として、インターネットをより普及させ、そのための大きなステップの原動力になることをめざしているという。

45Mbpsの超高速バックボーンが実現

日本における「インターネット1996ワールドエキスポジション」の運営については、組織委員会と実行委員会が発足し、実行委員長には村井氏が就任し、各国との調整をはじめとした運営の中心となって活動していく。また、米国MCI、国際電信電話株式会社、そして日本電信電話株式会社の各社によって、米国と日本の間に「インターネット・レイルロード」という45Mbpsの超高速バックボーンを敷設し、さらに国内にも45Mbpsのバックボーンを敷設することが決定しているという発表があった。

バックボーンの周りには「セントラルパーク」というテラバイトクラスのファイルサーバー

を設置し、また、さまざまなパビリオンを各組織が出展することになる。出展するにあたっての参加費用はおよそ2000万円から。実際に出展者の数は十数社を予定している。日本国内でのコストの総額はおよそ10億円というビッグプロジェクトだ。

多くの人が体験できるインターネット

現在では、インターネットに触れることができる人は限られている。しかし今回のエキスポでは、パブリックアクセス、つまり人が多く集まる場所で誰でもインターネットにアクセスすることができる場所を用意するという。つまりインターネットを特別な人にとつての特別なものではなく、たくさんの人に体験してもらおうというわけだ。

また、いまインターネットにつながっているのはあくまで「コンピュータ」なのだが、コンピュータ以外のものもインターネットにつないだり、これまでにない情報をインターネットに流したりすることで、インターネットと社会の融合を促進しようという企画もある。この一貫としてインターネット関連の雑誌の読者から200人程度を選考して、128Kbpsの専用線を自宅に引ける企画もある。

カール・マラムッド氏の講演と記者会見の録音リアルオーディオで聞ける！

7月21日に「ネットワールド+インターロップ'95 トークョウ」でカール・マラムッド氏の講演と、マスコミ関係者向けの記者会見が行われた。この模様はインターネットマガジン編集部ページにリアルオーディオのデータとして置いてあるので、ぜひお聞きいただきたい。

URL <http://realtimes.impress.co.jp/rtimes95/>

なお、この音声の再生には、リアルオーディオプレーヤーが必要。プレーヤーの入手については次のURLを参照のこと。

URL <http://www.realaudio.com/>





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp